真・恋姫†無双～戦国の剣客舞い降りる～

蒼鬼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
真・恋姫†無双～戦国の剣客舞い降りる～

【Ｎコード】
Ｎ７３１４Ｎ

【作者名】
蒼鬼

【あらすじ】
戦国時代それは、群雄割拠の時代。
しかし、それも最後の戦が終わるのだった。
西軍総大将　石田三成
もう一方は　東軍総大将　徳川家康。
東軍に参加した名が通っていない兵・・・・・その名は佐々木小次郎。
戦の終わり直後に彼は光に飲み込まれる。その先に待っているのは幸せがはたまた不幸か？

始まり

場所は日本

時は乱世渦巻く戦国時代

魔王織田信長と覇者豊臣秀吉亡き後、再び巻き起こった戦の世。

しかし、その戦もこの闘い『関ヶ原』にて決着がついた。

豊臣の世を守り復讐を成さんとする豊臣の忘れ形見

西軍総大将　　石田三成

対するは人と人との絆で日ノ本の平和にせんと闘う

東軍総大将　　徳川家康

西軍の陣では、石田三成が膝をつき肩が分かるほど上下し呼吸をしていた。

しかし、三成を倒したのは東軍の徳川家康ではない。

では誰か？

その者は三尺以上の日本刀と腰に通常の日本刀を差した青年だった。

？「もう、仕舞いにしようぜ。三成・・・・・・・もうこんな恨みにによる復讐は繰り返すのを終わらせよう」

三成「黙れ！！お前に私の何が分かる！？」

？「分かるさ・・・・・俺だってお前に・・・・・・・・・・・お袋や村の皆を殺されたんだからな。お前だけじゃない・・・毛利は俺の親父を・・・・・・信長は俺が好きだった人を殺した。」

青年は重い口を開き、ぽつり、ぽつりと自分の昔の話をし始めた。

三成「だから、どうした？」

？「同じなんだよ！お前が家康恨んじょるのも、俺がお前を恨んじょった時と重なるンじゃ。」

三成は一端青年の言葉に反応し、少しの間話を聞くことにした。

？「そりゃ、最初は恨んだ。信長が本能寺で謀反にあった時最初は『この手で、殺したかった』って言う気持ちと悔しさで一杯だった！・・・・・だけど、それから暫くしてこの胸の何処かにポッカリ穴が空いてしまってのお、なんだか何も考えられなくなって、次の復讐をしようと旅にでている間、疲れたんよ恨むことにさ」

三成「・・・・・・・・・・・・・・・。」

？「この先、復讐を果たしたとしてもまた胸の風穴ちゅうか、何っうか・・・・・・虚しいだけじゃと思ってな。俺はもうそう云う生き方は止めたんだ。　死んでいった親父やお袋・・・・・皆の分まで泣いて笑って生きていこうってな。その直後だ、お前が復讐に刈

られたのは・・・・・・・・」

？「俺は見てられなかった。お前を見てると・・・・・どうしても昔の俺が重なって見えちまう！だから、お前を止める為俺は東軍ではなく、一人の人として此処に来た」

青年が話を終え青空を見上げると下から泣き声が聞こえてきた。その声の主は他の誰でもない光成だった。

三成「心の何処かで分かっていた。家康を殺そうとも秀吉様は帰って来られないことは・・・・・分かっていた。だが、何かに目標を持たねば私は生きていけそうになかったのだ！どいつもこいつも家康、家康っと口に出す事で私の恨みは膨らんでいった」

三成は今まで胸の内に溜め込んでいた不安や思いを口に出したのだった。そう、考えれば三成は家康とは違い周りが敵だらけだった。

青年は三成の側によりしゃがんで肩に手を置く。

？「吐き出せ、気が済むまで。お前も死んだ秀吉も人間だ。今日泣いたって誰も攻めはしないさ。じゃあ、俺は行く。先の事は俺じゃ言えないけど、助言はしてやれる。暇な時俺を訪ねに来い。俺は長門の小さな村にいる」

三成「待て、貴様の名聞いてなかったな」

小次郎「小次郎・・・・・俺の名は佐々木小次郎（ささきこじろう）だ。」

青年、小次郎は名を名乗ると後ろに振り返り一端報告のため陣に戻っていった。

？「人を殺さず、人の心にすむ弱き心を鍛え、刀で斬るとは・・・・・・中々凄かったな小次郎」
誰かが小次郎に声を掛けると木陰から現れたのは東軍の総大将　徳川家康だった。

小次郎「家康・・・・・来てたなら。三成に声を掛ければいいのに・・・・・それと大将は戦の要だ最前線で闘う阿保が何処にいる？せめて中央場所で戦え。忠勝が泣くぞ。まあ、昔のお前よりは頼もしくなったな昔は『忠勝～～～！』って今にも泣きそうな表情で忠勝を起こしに行ってたっけ？」

家康「おっおい、小次郎その話はちょっと・・・・・・頼むからその事を知らぬ者には言わないでくれ」

小次郎「はい、はい・・・・・・ん？家康危ない！！」

小次郎は家康の足元から怪しげな光が現れている事に気づき、家康を突き飛ばすとその光が自分自身を囲い込む。

家康「いたたた、どうしたこじっ！？如何した何があった？今助ける「来るな！！」」

小次郎「危険だ。それにお前はこれからこの国を治める責任がある。それに比べ俺は人斬り・・・・・無用な存在だ。いいか家康・・・・・南と・・・・もお前・・・・・平和・・・・・し・・・・・ろ・・・・ょ。ぜっ・・・・・いだか・・・・・な。・・・・・・またな」

別れの言葉を小次郎が言うと囲んでいた光は一瞬にして輝きを増し、

目を瞑らなければならなくなり家康は目を瞑る。

そして、光が収まり家康が目を開けるとそのには剣客、佐々木小次郎の姿は何処にも無かった。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n7314n/

真・恋姫†無双～戦国の剣客舞い降りる～

2010年10月15日22時16分発行